

茶のみ地蔵

昔のことじゃ。小田の上隠地に「釜田屋」という、大きな金持ちがあつたそうじゃ。大きなお屋敷で、広い庭にはお地蔵さんをおまつりして、朝に夕にお茶をさし上げて拜んでおりんさつたそうじゃ。何代かが経つうちにお地蔵さんを粗末にあつかう時があつて、それから徐々に家運も傾き、貧乏になりんさつたそうじゃ。そしてとうとう屋敷もなくなり草ぼうぼうと生い茂り「釜田原」と呼ばれる荒地になつてしもうたんじゃ。

ある夜のこと、一人のお年寄りの枕もとにお地蔵さんが現われんさつてのお。「わしは釜田屋の茶のみ地蔵じゃ。お茶がのみたいのお。」といいんさつたそうじゃ。お年寄りはすぐに釜田原へ行つてのお、草に埋もれつたお地蔵さんを見つけたんじゃ。

まわりをきれいに
して、それからと
いうものは、毎日
お茶をお供えして
大切におまつりし
たんじゃよ。昔は
田んぼの中にあつ
たが、今じゃあ道
路わきに安置して
がんです。おまいり
すりゃあ、家運向
上、商売繁盛、い
いおかげがありま
すんじゃ。



おばけ屋敷

昔のことじゃ。小田の上隠地に藤次郎という神楽の面の彫り師が住んどつたんじゃ。般若や鬼の面が得意で、真にせまらできばえじゃつたんじゃ。宮ノ前藤次郎の面は、まるで化けて出てきそうな鬼気を感じさせるので、面をつけて舞う者もなくつた程じゃつた。本当に般若や鬼が化けて出るといいうわさが流れると家に近づく者もいなくなつたんじゃ。

孫の藤兵衛というのも一日中どぶろくを飲む変り者で、ケンカをしたり大声でどなつたりするので、ますます近寄る人はおらんかつた。藤次郎がなくなつてから、その幽霊はこの付近に出没したんじゃ。今は屋敷あとが残つているがここに何代目かの子孫が、この壺をなぐさめるために板の碑を建てたんじゃが、今でも上隠地に残つとるんじゃ。文字はもう良く読めんがお。

